

二十一世紀のものづくり創造拠点

京都新光悦村

—平成十八年度末に工事完成—



南丹市園部町内林町・瓜生野地区、京都縦貫自動車道園部インターチェンジからすぐのところ、平成十八年度末の完成を目指し、「京都新光悦村」の整備が進められています。

○京都新光悦村とは

安土桃山から江戸時代初期の芸術家「本阿弥光悦」は、依屋宗達や尾形光琳などとともに日本を代表する美術史上の潮流である琳派の一人で、京都洛北・鷹ヶ峰の地に、工芸にかかわる各分野の職人たちを引き連れて移り住み、後に「光悦村」と呼ばれる芸術家村を形成しました。ここでは、次々と新しい技や表現が生み出され、日本の芸術・工芸の発展に大きく貢献したといわれています。

この「光悦村」の精神を継承し、伝統産業と先端産業の盛んな京都の地に「新たな生活文化の創造と産業の活性化をめざす新産業拠点」を整備しようと計画されてきたのが京都新光悦村です。

○工事完成までのあゆみ

平成二年一月、第四次京都